

2024年3月29日
株式会社三菱UFJ銀行

ミサワホーム株式会社と「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 半沢 淳一^{はんざわ じゅんいち}、以下「当行」）は、お客さまの ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを支援・サポートする「ポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「本商品」）」を提供しております。

本商品は、「持続可能な開発の3つの側面（経済、環境、社会）のいずれかにおいて潜在的なマイナスの影響が適切に特定され緩和され、なおかつ少なくともそれらの一つの面でプラスの貢献をもたらす」ことを企図するファイナンスであり、お客さまの事業活動が環境、社会、経済にもたらすインパクトを包括的に評価・モニタリングし、お客さまの ESG 経営を金融面から支援するものです。

本商品のインパクト評価は、当行が三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（以下、「MURC」）と共同で策定した「ポジティブ・インパクト・ファイナンス フレームワーク」（以下、「フレームワーク」）に基づいております。フレームワークには評価にあたっての基準や体制等が規定されており、株式会社日本格付研究所（以下、「JCR」）より、国連環境計画金融イニシアティブによる「ポジティブ・インパクト金融原則」に適合している旨の第三者評価を取得しております。

この度、当行は、ミサワホーム株式会社に対し「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結いたしました。ミサワホーム株式会社の事業活動に関連する重要なインパクト領域における評価結果は次の通りです。なお、本評価は、当行と MURC が共同で実施し、フレームワークに基づいた評価である旨を JCR より確認しております。

《本件の概要》

ミサワホーム株式会社は、「HEART（心、思いやり）」と「EARTH（地球）」を掛け合わせた「Heart & Earth=HEARTH」を理念とした住まいづくりを行っています。ZEH や LCCM 住宅といった地球環境に貢献する住まいづくりの推進など、今後も ESG 経営に取り組むとともに、SDGs の目標達成に貢献できるよう、さまざまな活動に取り組めます

【ポジティブ・インパクトの創出に関する評価】

インパクト領域	活動内容とインパクトの状況
<環境> 気候 <社会> エネルギー	事業・販売した製品・サービスによるエネルギー使用量・GHG 排出量の削減（ZEH・LCCM に対応する戸建住宅の供給） └ 販売戸建住宅の ZEH 比率（北海道を除く）77%（2023年3月期） └ 居住段階 CO2 排出量 1.70t-CO2/棟（2015年度比▲71.8%）（2023年3月期）

<環境> 廃棄物 生物多様性と生態系サービス <経済> 資源効率・安全性	再生原材料や、再生可能性が高く生物多様性に配慮された原材料の使用（以下、2023年3月期実績） ㊦ 森林認証を受けた木材調達比率 84.4% ㊦ リサイクル廃プラスチック量 810t ㊦ M-Wood2※製造量 1,799t ※廃木材と廃プラスチックを利用したリサイクル素材
<社会> 住居	住宅の安全性・災害耐性の向上に関する取組・投資（以下、2023年3月期実績） ㊦ 過去の地震で倒壊した住宅 0件 ㊦ 長期優良住宅認定取得率 57.4% ㊦ 制振装置 M GEO 導入戸建の販売棟数 66,000棟以上
<社会> 住居 保健衛生	家事や子育て、介護負担を軽減する住宅や複合施設サービスの提供 ㊦ 再開発地区にて病院と分譲マンションの複合施設を建設（2023年3月期実績）
<社会> 雇用 <経済> 包摂的で健全な経済	女性活躍推進、及びマイノリティ（障害者等）への雇用機会の提供（ダイバーシティの促進）（以下、2023年3月期実績） ㊦ 男性育児休業取得率 71.4% ㊦ 女性従業員比率 21.3% ㊦ 女性管理職比率 2.4% ㊦ 障がい者雇用率 2.36% ㊦ 外国籍従業員雇用数 3人 ㊦ 女性活躍推進課を新設（2023年4月） ㊦ ワークライフハーモニー（「仕事」と「生活」の調和）宣言を実施の上、全社員に宣言カードを配付

【ネガティブ・インパクトの緩和・管理に関する評価】

インパクト領域	インパクトの状況と、緩和・管理の状況
<環境> 気候 <経済> 資源効率・安全性	【インパクトの状況】 グループ全社 GHG 排出量（以下、2023年3月期実績） ㊦ Scope1 : 8,542 t-CO2 ㊦ Scope2 : 20,738 t-CO2 ㊦ Scope3 : 1,311,346 t-CO2 【緩和・管理の状況】 ・ 社有車のHV車への切替 ・ 施工現場の電気利用における排出削減策の推進 ・ 卒FITオーナーさま余剰電力の事務所・展示場に活用 ・ オーナーさま宅のエコリフォームによりCO2排出量削減
<環境> 大気	【インパクトの状況】 特定の材料・デザインや劣悪な建物管理に起因する、劣悪な室内空気環境の発生（シックハウス症候群） ㊦ 室内空気環境におけるVOC基準適合率 95%（2023年3月期実績） 【緩和・管理の状況】 VOC放散量の低減

<p><社会> エネルギー</p>	<p>【インパクトの状況】 事業活動によるエネルギーの消費（以下、2023年3月期実績） ↳ グループ全社消費量 ・ 電力 248,138GJ ・ 都市ガス 3,181GJ ・ LPG 1,778GJ ・ ガソリン 73,975GJ ・ 軽油 188,500GJ ・ 灯油 5,762GJ ・ LNG 10GJ</p> <p>【緩和・管理の状況】 ・ 省エネ法に基づくエネルギー使用量の削減取組の実施 ・ ミサワホームフィンランド工場にてエネルギーを有効活用（製材時に発生する木くずや端材を火力発電所の燃料として供給、及び発電時に発生する熱を温水として調達・利用） ・ 1回次部品の関東物流センター出荷拡大による輸送距離短縮 ・ 積載基準、荷量によるルート見直しにより台数削減 ・ 工場建屋や工程断熱の推進 ・ 工場生産性向上 ・ 社有車のHV車への切替 ・ 施工日数短縮</p>
<p><環境> 大気 水（質） 土壌 廃棄物</p>	<p>【インパクトの状況】 製造工程におけるPRTR対象化学物質の使用（以下、2023年3月期実績） ↳ 全工場 PRTR 届出総量 43.74t ↳ PRTR 対象化学物質の生産段階使用量 3.16g/m²（2015年度比 ▲79.8%）</p> <p>【緩和・管理の状況】 ・ 化学物質を含まない部材開発 ・ 半期に一度開催する社内VOC会議（技術部・商品開発部・建設推進部・生産統括部・総合研究所のメンバーが参加）にて、厚労省を中心とした最新の化学物質に関する規制内容や規制動向に関する情報共有</p>
<p><環境> 廃棄物 <経済> 資源効率・安全性</p>	<p>【インパクトの状況】 新築工事における建設・解体廃棄物の発生（以下、2023年3月期実績） ↳ 解体廃棄物発生量 31,890t ↳ 新築現場で発生する廃棄物量 20.5kg/m² ↳ 副産物リサイクル量 16,876t（施工現場発生分は100%）</p> <p>【緩和・管理の状況】 ・ 部材歩留まり率向上 ・ 解体廃棄物のリサイクル率向上 ・ 新築現場及び解体廃棄物の有価買取促進</p>

<p style="text-align: center;"><社会> 雇用 保健・衛生</p>	<p>【インパクトの状況】 労働時間の増加、労働災害の発生、従業員の健康への悪影響（以下、2023年3月期実績） <ul style="list-style-type: none"> └ 従業員1人当たりの所定外労働時間数 21.2時間/月 └ 労災事故発生件数（休業4日以上） 31件 └ ホワイト500認定（2018年度より5年連続） └ 定期健診受診率 100%（2018年度より5年連続） 【緩和・管理の状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 労災事故発生件数（休業4日以上） 0件 ・ 定期健診受診率 100%継続 ・ 建設現場での品質、安全教育を目的に研修を実施（工事主任者研修など） </p>
<p style="text-align: center;"><社会> 人格と人の 安全保障</p> <p style="text-align: center;"><ガバナンス> 強固な制度、 平和、安定</p>	<p>【インパクトの状況】 自社事業活動におけるコンプライアンス違反（人権侵害・1個人情報漏洩等）及びクレームの発生（以下、2023年3月期実績） <ul style="list-style-type: none"> └ コンプライアンス研修参加者数 8,084名 └ ヘルプライン通報件数（社員） 18件 └ ヘルプライン通報件数（社外） 0件 └ 個人情報漏洩事故発生件数 10件 └ コールセンター苦情受付率（苦情のうち近隣苦情の占める比率） 0.58% 【緩和・管理の状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・ ヘルプライン、コールセンター機能の維持継続 ・ 個人情報漏洩事故発生件数 ゼロ </p>

【目標（KPI）】

内容	目標とモニタリング項目（KPI等）
ZEB・ZEHの推進	<p>【目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2030年 戸建住宅のZEH比率 90% ・ 2030年 集合住宅のNearly ZEH以上の比率 50% 【モニタリング項目（KPI等）】 戸建て及び集合住宅のZEH着工実績</p>
森林認証材の利用促進	<p>【目標】 森林認証を受けた木材調達比率 85%（維持目標） 【モニタリング項目（KPI等）】 森林認証材調達率</p>
M-Wood2の利用推進による廃プラスチックのリサイクル推進	<p>【目標】 目標設定なし 【モニタリング項目（KPI等）】 リサイクルされた廃プラスチック量</p>
制振装置MGEOの設置推進	<p>【目標】 2023年度MGEO導入率 2022年度比で上昇 【モニタリング項目（KPI等）】 MGEO導入率</p>
女性活躍社会の実現に向けた取組実施	<p>【目標】 男性育児休業取得率 100% 【モニタリング項目（KPI等）】 男性育児休業取得率</p>

CO2 排出量の削減・再生可能エネルギーの利用推進	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2030年 CO2 排出量 50%削減（2020年度比） ・2030年 エコリフォームによる CO2 削減貢献量 +30%（2020年度比） ・2030年 再エネ率 60%（事務所・施工現場） <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2 排出量 ・エコリフォームによる CO2 削減貢献量 ・再エネ電気使用率（事務所・施工現場）
VOC 放散量の低減	<p>【目標】</p> <p>VOC 基準適合率 95%以上（維持目標）</p> <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <p>VOC 基準適合率</p>
調達物流や社有車利用の効率化などによるエネルギー使用量削減	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年度 調達物流合理化によるガソリン使用量削減 ↳省エネ法に基づく削減義務の達成に向けての取組であり、2024年度以降もエネルギー使用量の削減目標が設定される見込みである ・2030年度 社有車ガソリン使用量 20%削減（20年度比） <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社有車ガソリン使用量 ・調達物流におけるガソリン使用削減量
廃棄物発生量の削減	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2030年度 新築工事現場における廃棄物発生量削減によるスコープ3カテゴリ5 排出量 30%削減（2020年度比） <p>※削減割合の母数は新築工事現場において発生した廃棄物由来のGHG 排出量</p> <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新築工事現場由来のスコープ3カテゴリ5 排出量
労働災害の防止・社員の健康の維持増進	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労災事故件数 0件 ・定期健診受診率 100% ・ホワイト500 認定の維持継続 <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労災事故件数 ・定期健診受診率 ・ホワイト500 認定の取得状況
ヘルプライン機能の確保	<p>【目標】</p> <p>目標なし</p> <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <p>ヘルプライン通報件数（社員・社外）</p>

当行は、特定されたインパクトの創出状況やネガティブ・インパクトの緩和・管理の状況、目標、モニタリング項目（KPI等）の状況について、ファイナンス期間にわたり年1回モニタリングを実施してまいります。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以 上